

【！県内の病害虫に関する情報を配信中！】

鳥取県病害虫防除所 HP にて病害虫予察情報を随時更新しています。
各種情報は右記 QR コードからご覧いただけます。



令和 7 年度病害虫発生予報第 1 1 号

令和 8 年 3 月 4 日
鳥取県病害虫防除所

予報の概要

区分	農作物名	病害虫名	発生時期	予想発生量
普通作物	イネ	ばか苗病	—	平年並
		イネシンガレセンチュウ	平年並	平年並
果樹	ナシ	黒斑病	平年並	平年並
		黒星病	やや早い	平年並
		ハダニ類	やや早い	平年並
		カメムシ類	やや早い	やや多い
野菜	ラッキョウ	灰色かび病	平年並	平年並
		白色疫病	—	平年並

気象予報（抜粋）

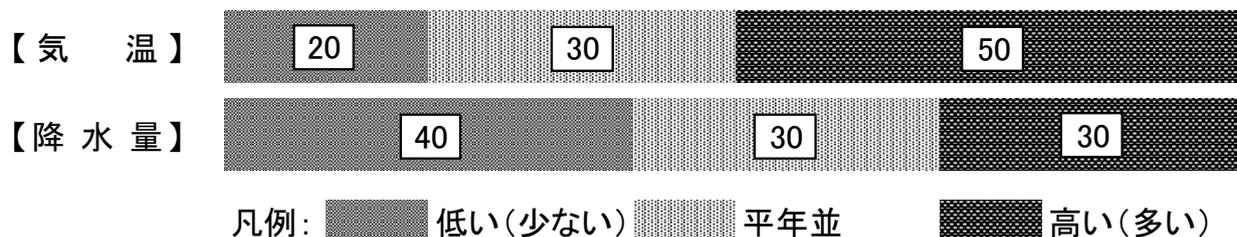
1 か月予報（2月28日～3月27日：2月26日、広島地方气象台発表）

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

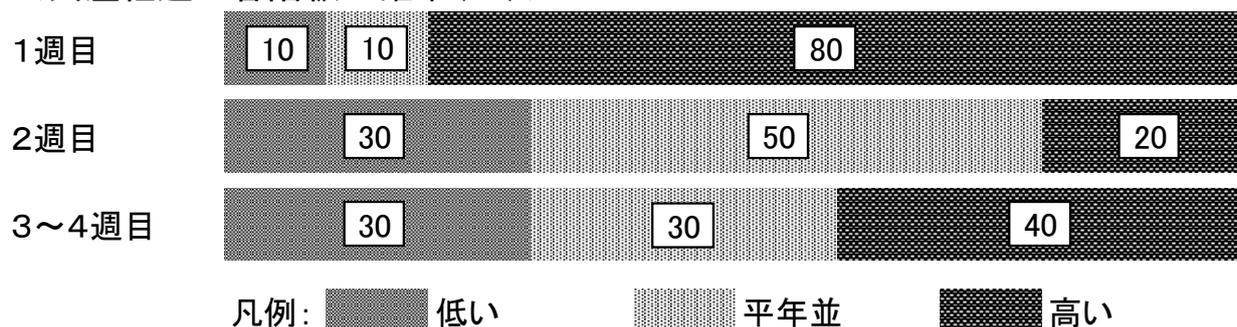
天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。平均気温は、高い確率50%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率80%です。2週目は、平年並の確率50%です。

<向こう1か月の気温、降水量の各階級の確率(%)>



<気温経過の各階級の確率(%)>



【！県内の病害虫に関する情報を配信中！】

鳥取県病害虫防除所 HP にて病害虫予察情報を随時更新しています。
各種情報は右記 QR コードからご覧いただけます。



普通作物

[イ ネ]

1 ばか苗病（育苗期）

（1）予報の内容

発生量 平年並

（2）予報の根拠

前年の発生は平年並であり、本年用種子の保菌率は平年並と予想される。

（3）防除上注意すべき事項

ア 前年の発生ほ場から採取した籾は、種子として使用しない。

イ 塩水選及び種子消毒を徹底する。また、これらの作業及び浸種、催芽を行う際は、伝染の拡大を防ぐため、自家採種、購入先が異なる等、入手由来が異なる種子を同じ容器で浸種しない。

ウ 温湯種子消毒にあたっては、消毒時間、温度などを厳守する。消毒後の種子を保管する場合には、種子を十分に乾燥させ、清潔な冷暗所に保管する。浸種を行う場合には、必ず水道水を使用し、適宜、水の交換を行う。

エ 薬剤による種子消毒（低濃度長時間浸漬）を行う際は、薬液がよく浸透するように網袋にゆとりをもたせる。また、薬液の温度が10℃以下にならないように注意する。消毒後の浸種は停滞水中で行う。原則として水の交換は行わないが、水温が高い場合など酸素不足になるおそれがあるときは静かに換水する。

2 イネシンガレセンチュウ

（1）予報の内容

発生時期 平年並

発生量 平年並

（2）予報の根拠

前年の本虫による葉先枯れ症状の発生はほとんど認められなかったため、汚染籾率は低いものと推測される。

（3）防除上注意すべき事項

ア 前年の発生ほ場から採取した籾は、種子として使用しない。

イ 塩水選及び種子消毒を徹底する。

ウ 温湯種子消毒については、ばか苗病に準じる。

エ 薬剤による種子消毒（低濃度長時間浸漬）の場合、ばか苗病防除薬剤と本虫防除薬剤の混用により同時防除が可能であるが、各薬剤の使用濃度が異なるので注意する。

【！県内の病害虫に関する情報を配信中！】

鳥取県病害虫防除所 HP にて病害虫予察情報を随時更新しています。
各種情報は右記 QR コードからご覧いただけます。



果 樹

[ナ シ]

1 黒斑病

(1) 予報の内容

発生時期 平年並

発生量 平年並

(2) 予報の根拠

ア 令和7年11～12月に行った越冬菌密度調査の結果、短果枝の病芽率は平年に比べてやや低く、一年枝上の病斑数の値及び一年枝の病枝率は平年並であった。

イ 向こう1か月の気象予報から発生時期、発生量ともに平年並と予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発芽期までにトップジンMペースト原液による病斑への塗布作業を徹底して行う。2～3年生の側枝を中心に側枝全体をよく見てトップジンMペースト原液の塗布を行う。

イ 発芽期～開花前頃になると、芽の動きから病芽がはっきりと判別できるようになる。この時期に園内を2～3回見回り、腐れ芽を除去して園外に持ち出す。

ウ 薬剤は、発芽期～花蕾露出期にアントラコール顆粒水和剤500倍液、りんぼう脱落直前にデランフロアブル1,000倍液、開花始めにチウラム水和剤（トレノックスフロアブル又はチオノックフロアブル）500倍液などを散布する。

2 黒星病

(1) 予報の内容

発生時期 やや早い

発生量 平年並

(2) 予報の根拠

ア 令和8年1～2月に行った越冬菌密度調査の結果、腋花芽の病芽率は平年に比べて低かった。

イ 昨年の発生量は平年に比べてやや少ない～平年並であり、越冬伝染源となる罹病落葉の量もやや少ない～平年並と見込まれる。

ウ 向こう1か月の気象予報から発生時期はやや早く、発生量は平年並と予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 開花期頃になると、花そう基部病斑が観察し易くなる。この時期に園内を見回り、発病花そうを除去して園外に持ち出す。

イ 本病が発病した花そうのりん片脱落期は遅れる傾向があるので、花そう基部病斑を探す際によく観察する。

ウ 薬剤は、発芽前にデランフロアブル1,000倍液、発芽期～花蕾露出期に有機銅水和剤(キノンドーフロアブル又はドキリンフロアブル)1,000倍液、りんぼう脱落直前にデランフロアブル1,000倍液、開花始めにアンピルフロアブル1,000倍液又はミギワ20フロアブル4,000倍液、交配終了後にチウラム水和剤（トレノックスフロアブル又はチオノックフロアブル）500倍液などを散布する。

【！県内の病害虫に関する情報を配信中！】

鳥取県病害虫防除所 HP にて病害虫予察情報を随時更新しています。
各種情報は右記 QR コードからご覧いただけます。



3 ハダニ類

(1) 予報の内容

発生時期 やや早い
発生量 平年並

(2) 予報の根拠

ア 県内巡回調査園におけるハダニ類の越冬量は、平年に比べて少ない～平年並であった。

イ 向こう1か月の気象予報から発生時期はやや早く、発生量は平年並と予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 枝、樹皮及び誘引なわ等に越冬成虫や越冬卵が多く認められるナシ園では、春先の蕾や幼葉での被害が予想されるため、防除を徹底する。

イ 薬剤は、発芽前にハーベストオイル100倍液を散布する。なお、発芽期に殺菌剤を散布するナシ園では、ハーベストオイルとの散布間隔を10日程度あける。

ウ 開花前までにハダニ類の発生が認められた場合は、カネマイトフロアブルの1,500倍液などを単用で散布する。

4 カメムシ類

(1) 予報の内容

発生時期 やや早い
発生量 やや多い

(2) 予報の根拠

ア クサギカメムシの越冬成虫数（ベニヤ板トラップ、県内10地点調査）は、トラップ当たり14.5頭（平年：9.4頭）と平年に比べてやや多かった。

イ 向こう1か月の気象予報から発生時期はやや早く、発生量はやや多いと予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 山間地及び民家近くの果樹園で例年発生が認められる園では、春期の被害が予想されるため、成虫の飛来を注意して観察する。

イ 例年カメムシ類の発生が多い園では、4月以降、定期的にはほ場を見回るなどして、春先の発生程度の把握に努める。

野 菜

[ラッキョウ]

1 灰色かび病

(1) 予報の内容

発生時期 平年並
発生量 平年並

(2) 予報の根拠

ア 2月下旬現在、県東～中部の現地調査ほ場における発生は認められていない。

イ 本病は4月に高温多雨で、5月に低温多雨の条件で発生が増加するが、向こう1か月及び3か月の気象予報から、発生時期、発生量ともに平年並と予想される。

【！県内の病害虫に関する情報を配信中！】

鳥取県病害虫防除所 HP にて病害虫予察情報を随時更新しています。
各種情報は右記 QR コードからご覧いただけます。



(3) 防除上注意すべき事項

ア 農薬の使用時期（収穫前日数）に注意し、5月上旬まで、ロブラール水和剤 1,000 倍液、カンタスドライフロアブル 1,500 倍液、ベルコートフロアブル 1,000 倍液、フロンサイド SC 1,000～2,000 倍液、セイビアーフロアブル 20 の 1,000～1,500 倍液、ダコニール 1000 の 1,000 倍液などを輪番で散布する。

イ 降雨後には、枯れた葉の病斑上に多数の分生子を形成するので、降雨後の防除を徹底する。

ウ 本病は白色疫病の発生量が多いと発病が増加する傾向がある。

エ 茎葉が過繁茂となったラッキョウは、株元に薬液がかかりにくい状態となっているので、丁寧に散布する。

2 白色疫病

(1) 予報の内容

発生量 平年並

(2) 予報の根拠

ア 2月下旬現在、県東～中部の現地調査ほ場における発生はやや多い。

イ 本病は、降雪後の雪解け水や連続降雨により、発病が急速に広がる。

ウ 向こう1か月の気象予報から、発生量は平年並と予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 本病の発生が認められる場合は、フォリオゴールド 1,000 倍液、ホライズンドライフロアブル 1,000 倍液などを茎葉にむらなく散布する。

イ 罹病株は伝染源となるので、ほ場外に持ち出し処分する。

【！県内の病害虫に関する情報を配信中！】

鳥取県病害虫防除所 HP にて病害虫予察情報を随時更新しています。
各種情報は右記 QR コードからご覧いただけます。



【おしらせ】

農薬の使用に当たっては、農薬使用基準を遵守するとともに、周辺への飛散には十分注意しましょう。

農薬の詳しい登録内容は、農林水産省の「農薬登録情報提供システム」から検索できます (<https://pesticide.maff.go.jp/>)。

なお、農薬の使用や防除指導等に際しては、農薬のラベルを必ず御確認ください。

＜鳥取県病害虫防除所ホームページ＞

アドレス <https://www.pref.tottori.lg.jp/boujosyo>



病害虫発生予察情報、フェロモントラップ調査結果（ナシのシンクイムシ類など）などの参考情報、病害虫の診断方法などの情報をお知らせしていますので、御利用ください。

＜お問い合わせ＞

普通作物関係：〒680-1142 鳥取市橋本 260

鳥取県病害虫防除所

（電話：0857-53-1345、電子メール：byogaichu@pref.tottori.lg.jp）

もしくは

鳥取県農業試験場環境研究室

（電話：0857-53-0721、ファクシミリ：0857-53-0723）

果樹・野菜関係：〒689-2221 東伯郡北栄町由良宿 2048

鳥取県園芸試験場環境研究室

（電話：0858-37-4211、ファクシミリ：0858-37-4822）

※令和 8 年度予報第 1 号の発表は、4 月 5 日（水）の予定です。

令和 8 年 春の農作業安全運動（3 月 1 日～5 月 3 1 日）実施中

安全対策で良い農業経営と生活を続けましょう！

農業機械の運転・操作時の安全確認や安全装置の確実な利用により、事故の発生防止や被害軽減に努めましょう。また、安全に農作業できるよう、家族や地域で声をかけ合いましょう。

鳥取県農林水産部経営支援課ホームページ、農業機械・農作業安全

令和 8 年 春の農作業安全運動（3 月 1 日～5 月 3 1 日）

<https://www.pref.tottori.lg.jp/119790.htm>



＜連絡先＞

〒680-8570 鳥取市東町 1-220

鳥取県農林水産部農業振興局経営支援課農業普及推進室

（電話：0857-26-7327、ファクシミリ：0857-26-7294）